

2018年度

自己点検・評価報告書

2019年3月

学校法人 文理学園



日本文理大学医療専門学校

臨床工学科

目次

| | | |
|-----|---------------|----|
| I | 学校の現況 | 1 |
| II | 評価の基本方針 | 2 |
| III | 重点目標 | 2 |
| IV | 評価項目の達成及び取組状況 | 3 |
| | 1. 教育理念・教育目標 | 3 |
| | 2. 学校運営 | 4 |
| | 3. 教育活動 | 5 |
| | 4. 学修成果 | 6 |
| | 5. 学生支援 | 7 |
| | 6. 教育環境 | 8 |
| | 7. 学生の受入れ募集 | 9 |
| | 8. 財務 | 10 |
| | 9. 法令等の遵守 | 11 |
| | 10. 社会貢献・地域貢献 | 12 |
| V | 総合評価 | 13 |

I 学校の現況

(1) 施設の概要

学校名: 学校法人 文理学園 日本文理大学医療専門学校

所在地: 大分県大分市一木1727

施設長: 校長 豊住 昭和

(2) 沿革

1995年(平成07年)学校法人文理学園 NBUメディカルカレッジ 開校 診療放射線科設置

2004年(平成16年)学校法人文理学園 日本文理大学医療専門学校 開校 診療放射線学科設置

2005年(平成17年)同校 臨床検査学科・臨床工学科設置

(3) 学科の構成

| 課程名 | 学科名 | 修業年限 | 入学定員 | 総定員 | 昼夜別 |
|--------|---------|------|------|------|-----|
| 医療専門課程 | 診療放射線学科 | 3年 | 80名 | 240名 | 昼間 |
| | 臨床検査学科 | 3年 | 40名 | 120名 | 昼間 |
| | 臨床工学科 | 3年 | 40名 | 120名 | 昼間 |

(4) 学生数

| 学科名 | 1学年 | 2学年 | 3学年 | 全学年 |
|---------|-----|-----|-----|-----|
| 診療放射線学科 | 64 | 63 | 85 | 212 |
| 臨床検査学科 | 36 | 38 | 29 | 103 |
| 臨床工学科 | 21 | 17 | 19 | 57 |

(5) 教職員数

| | 専任 | 非常勤 |
|---------|----|-----|
| 診療放射線学科 | 10 | 4 |
| 臨床検査学科 | 6 | 7 |
| 臨床工学科 | 7 | 7 |
| 職員数 | 23 | 18 |

II 評価の基本方針

- (1) 自己点検・自己評価を行うことにより教育研究活動の現状を把握し、諸機能を活性化させ、その教育水準の維持向上に努めることを目的とする。
- (2) 自己点検・自己評価は「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り実施するものとする。
- (3) 判定基準

| | |
|---------|----------------------------|
| 4…適切 | 適切にされており、特に解決すべき課題はない |
| 3…ほぼ適切 | 現時点で早急に解決すべき課題はないが、状況把握が必要 |
| 2…やや不適切 | 状況把握を行い、解決に向けた取組みが必要 |
| 1…不適切 | 早急に解決すべき課題である |

III 重点目標

1. 学校の教育目標

- (1) 社会に必要とされる、保健・医療の担い手としての人間的資質を養い、広く社会に貢献できる医療人を育成する
- (2) 進化発展する、医療技術に対応するために、勉学に励み、日々研鑽を怠らない信頼される医療のスペシャリストを育成する
- (3) 国家試験の全員合格を目指す

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 国家試験合格率100%を目指した教育の実践
- (2) 定員充足率100%を目指した学生募集の展開
- (3) 学生の就職活動の早期化および、施設の開拓

IV 評価項目の達成及び取組状況

1. 教育理念・教育目標

| 評価項目 | | 評価 |
|------|---|--------|
| 1 | 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか | 4…適切 |
| 2 | 学校における職業教育の特色は何か | 4…適切 |
| 3 | 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか | 3…ほぼ適切 |
| 4 | 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか | 3…ほぼ適切 |
| 5 | 学科の教育目標、育成人材像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 4…適切 |

| |
|---|
| ① 課題 |
| 4 学校の教育理念、教育目標が学生及び保護者に周知不足と感じている。 |
| ② 今後の改善方策 |
| 4 パンフレット、募集要項、学生便覧等にアドミッションポリシー等を明記する。 求められる人材等を踏まえ、各学科の目標、特色を打ち出していく。 |
| ③ 特記事項 |
| |

2. 学校運営

| 評価項目 | | 評価 |
|------|--|---------|
| 1 | 目的等に沿った運営方針が策定されているか | 4…適切 |
| 2 | 運営方針に沿った事業計画が策定されているか | 4…適切 |
| 3 | 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | 3…ほぼ適切 |
| 4 | 人事、給与に関する規定等は整備されているか | 4…適切 |
| 5 | 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか | 3…ほぼ適切 |
| 6 | 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか | 3…ほぼ適切 |
| 7 | 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか | 4…適切 |
| 8 | 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 2…やや不適切 |

| |
|--|
| ① 課題 |
| 8 情報システム(教務システム)でのPC運用に切り替えたが、移行が十分ではなかった。 |
| ② 今後の改善方策 |
| 8 PC運用を徹底し、情報システム(教務システム)への移行を完了させる。 |
| ③ 特記事項 |
| |

3. 教育活動

| 評価項目 | | 評価 |
|------|---|---------|
| 1 | 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | 4…適切 |
| 2 | 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 4…適切 |
| 3 | 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 4…適切 |
| 4 | キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | 3…ほぼ適切 |
| 5 | 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | 2…やや不適切 |
| 6 | 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか | 4…適切 |
| 7 | 授業評価の実施・評価体制はあるか | 4…適切 |
| 8 | 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか | 4…適切 |
| 9 | 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか | 3…ほぼ適切 |
| 10 | 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 3…ほぼ適切 |
| 11 | 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 4…適切 |
| 12 | 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか | 3…ほぼ適切 |
| 13 | 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか | 3…ほぼ適切 |
| 14 | 職員の能力開発のための研修等が行われているか | 3…ほぼ適切 |

| |
|---|
| ① 課題 |
| 5 関連団体との協力体制は整っているものの、連携したカリキュラム作成や見直しに関して十分ではない。 |
| ② 今後の改善方策 |
| 5 教育課程編成委員会を中心にカリキュラムの見直し、改定を進めていく。 |
| ③ 特記事項 |
| |

4. 学修成果

| 評価項目 | | 評価 |
|------|---------------------------------------|--------|
| 1 | 就職率の向上が図られているか | 4…適切 |
| 2 | 資格取得率の向上が図られているか | 4…適切 |
| 3 | 退学率の低減が図られているか | 3…ほぼ適切 |
| 4 | 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 3…ほぼ適切 |
| 5 | 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | 4…適切 |

| |
|--|
| ① 課題 |
| 4 卒業生の動向把握が完全ではない。 |
| ② 今後の改善方策 |
| 4 卒業生との連絡体制を確保・強化し、年数が経過した場合も勤務先の把握に努める。 |
| ③ 特記事項 |
| |

5. 学生支援

| 評価項目 | | 評価 |
|------|---|--------|
| 1 | 進路・就職に関する支援体制は整備されているか | 4…適切 |
| 2 | 学生相談に関する体制は整備されているか | 4…適切 |
| 3 | 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか | 3…ほぼ適切 |
| 4 | 学生の健康管理を担う組織体制はあるか | 3…ほぼ適切 |
| 5 | 課外活動に対する支援体制は整備されているか | 3…ほぼ適切 |
| 6 | 学生の生活環境への支援は行われているか | 4…適切 |
| 7 | 保護者と適切に連携しているか | 4…適切 |
| 8 | 卒業生への支援体制はあるか | 3…ほぼ適切 |
| 9 | 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 3…ほぼ適切 |
| 10 | 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | 4…適切 |

| |
|--|
| ① 課題 |
| |
| ② 今後の改善方策 |
| 5 課外活動の多くはボランティア活動であり、高齢者福祉施設でのお世話、日本赤十字活動、リレーフォーライフなど学生自身の自主的な参加によるものである。すべての企画に支援を行っているが、すべての学生が経験可能となるよう機会を増やしたい。 |
| ③ 特記事項 |
| |

6. 教育環境

| 評価項目 | | 評価 |
|------|--|--------|
| 1 | 施設・整備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 3…ほぼ適切 |
| 2 | 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 4…適切 |
| 3 | 防災に対する体制は整備されているか | 4…適切 |

| | |
|-----------|------------------------------------|
| ① 課題 | |
| 1 | 医療機器の使用時間や老朽化により、教育環境が不十分となる恐れがある。 |
| ② 今後の改善方策 | |
| 1 | 計画的に医療機器の整備を行い、更新計画を整えておく。 |
| ③ 特記事項 | |
| | |

7. 学生の受入れ募集

| 評価項目 | | 評価 |
|------|-----------------------------|--------|
| 1 | 学生の募集活動は、適正に行われているか | 3…ほぼ適切 |
| 2 | 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 4…適切 |
| 3 | 学納金は妥当なものとなっているか | 4…適切 |

| | |
|-----------|---|
| ① 課題 | |
| 1 | 学生募集活動はルールに基づき実施しているが、職種の認知不足により募集定員に達していない。 |
| ② 今後の改善方策 | |
| 1 | 教職員の意識改革が必要である(全教職員が募集担当の意識を持つ)。臨床工学技士の認知拡大を、高校訪問・ネット等を活用して進めていく。 |
| ③ 特記事項 | |
| | |

8. 財務

| 評価項目 | | 評価 |
|------|--------------------------|--------|
| 1 | 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 4…適切 |
| 2 | 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 3…ほぼ適切 |
| 3 | 財務について会計監査が適正に行われているか | 4…適切 |
| 4 | 財務情報公開の体制整備はできているか | 3…ほぼ適切 |

| | |
|-----------|--|
| ① 課題 | |
| 4 | 学園ホームページ(日本文理大学)にて公開されており、日本文理大学医療専門学校の公式ホームページでは掲載されていない。 |
| ② 今後の改善方策 | |
| 4 | 日本文理大学医療専門学校の公式ホームページにて公開する。 |
| ③ 特記事項 | |
| | |

9. 法令等の遵守

| 評価項目 | | 評価 |
|------|-------------------------------|--------|
| 1 | 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 4…適切 |
| 2 | 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 4…適切 |
| 3 | 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか | 3…ほぼ適切 |
| 4 | 自己評価結果を公表しているか | 3…ほぼ適切 |

| | |
|---|--|
| ① 課題 | |
| 2 個人情報保護の観点から、パンフレットへの写真掲載に関して、掲示や口頭説明にて承認を得たが、承諾書を使用していない。 | |
| ② 今後の改善方策 | |
| 2 2019年度入学生、在校生より承諾書にて同意を得るように変更する。 | |
| ③ 特記事項 | |
| | |

10. 社会貢献・地域貢献

| 評価項目 | | 評価 |
|------|---|--------|
| 1 | 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 3…ほぼ適切 |
| 2 | 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか | 4…適切 |
| 3 | 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか | 3…ほぼ適切 |

| |
|---|
| ① 課題 |
| 2 様々なボランティア活動の案内を受けているものの、学校行事と重なり参加が十分でない。 3 学会等への参加、協力を実施しているが、学校行事と重なり十分ではなかった。 |
| ② 今後の改善方策 |
| 2 3 ボランティア活動に参加しやすいような授業計画(講義読み替え可能など)を検討するとともに技士会主催の学会や勉強会への参加促進及び会場提供等を行う。 |
| ③ 特記事項 |
| |

V 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

【学校評価の具体的な目標】

健全な学校運営、社会のニーズに沿った質の高い教育の提供を目標とし、その取り組み及び達成状況等について自己評価を実施するとともに、その結果を公表することとする。

また、学校関係者評価委員会並びに教育課程編成委員会を設置し、その各委員会からの意見或いは外部からの意見を踏まえ、問題点の改善を図っていくことで、目標達成を目指す。

【総合的な評価】

多数の評価項目において、評価が「適切」に到達しておらず改善の余地があり、次年度以降、改善方策に挙げた意見を踏まえ、各評価項目の評価改善を図る。

また、「評価」の改善には教員の能力向上も必須であることから、各個人が意識改革を図り、健全な学校運営、社会のニーズに沿った質の高い教育の提供に努める。